

## 献 辞

社会学部長 清水 由文

西川一廉教授，松本真一教授，津金澤聡廣教授が本年3月末日をもって本学を退職されることになったのである。

西川一廉教授は，1971年に関西学院大学大学院博士課程を修了され，1978年に本学社会学部に就任され，本学では30年在職されておられた。その期間に社会学部長，大学院社会学研究科長，情報センター長，大学評議員などの要職をこなされて大学，学部の発展に十分に貢献されたのである。先生は学部では産業心理学，コミュニケーション論，大学院で産業問題論を担当されておられる。そして先生は一貫して産業心理学を研究してこられ，博士論文をもとにした『職務満足の心理学的研究』が主著であるが，この15年ぐらいは『仕事とライフスタイルの心理学』，『コミュニケーションプロセス』などにみられるように，勤労者をトータルにとらえるために勤労者のライフスタイルを研究されておられ，それに関する研究業績が多数みられるのである。

松本真一教授は1965年に大阪市立大学大学院家政学研究科修士課程を修了され，家庭裁判所調査官，広島女子大学，大阪府立大学から1989年に本学に着任され，現在まで19年間に在職されたのである。その間入試委員長，学生生活委員長などを歴任されておられる。また1998年の社会福祉科の設置および大学院の設置（社会福祉関連）においてご尽力いただいた。学部では社会福祉原論，児童福祉論，大学院では社会福祉学Ⅰを担当されている。そして先生はこれまで『児童ケースワーク論』，『少年保護と児童福祉』などの単著のほか編著者として『現代社会福祉論』を出版され，最近では東南アジアの児

童問題に多大な関心を持っておられるのである。

津金澤聡廣教授は1957年に京都大学教育学部を卒業され、毎日放送、関西学院大学教授を経て、2000年に本学社会学部に就任され、就任期間が8年と短期間であったが、本学部に多大なインパクトを残されたのである。とくに、博士課程の設置時には研究科長としてご尽力いただいている。学部ではマスコミュニケーション論Ⅱ、大学院では広報社会学を担当しておられる。先生の研究業績は非常に多岐にわたっておられるので、ここで簡単にご紹介できないが、あえて挙げるとすれば、単著で『宝塚戦略—小林一三の生活文化論』、博士論文にもとづく『現代日本のメディア史の研究』、編著者では『戦後日本のメディア・イベント』、『大正・昭和の風俗批評と社会運動—村嶋歸之著作選集全五巻』、『大衆文化事典』などであり、それらは日本のメディア史研究が中心といえる。

このような3人の先生を同時にお送りしなければならないのは大変残念でさびしい限りである。今後先生方におかれては後進の者に引き続きご指導いただけるようお願いする次第である。

2008年2月